SCM 共同ネット研究会
— 2015.8 —

NEWS ダイジェスト

一般社団法人 SCM共同ネット研究会 代表理事 滝沢保男
〒105-0023 東京都港区芝浦1-13-10 第三東運ビル8F
TEL：03-5419-8239 FAX：03-3455-7023 URL：http://www.scm-net.jp

一般社団法人SCM共同ネット研究会（滝沢保男理事長）は７月15日，東京都品川区の東芝テック㈱・大会議室において「食品流通次世代SCMセミナー」を開催，約90名が訪れた。日本大学の鈴木邦成教授を基調講演に招いた同セミナーから，講演模様の一部を紹介する。（本部事務局）

●ご挨拶並びに第５期の当会の異業種ネットの共同組織活動の紹介／一般社団法人SCM共同ネット研究会 滝沢保男代表理事

滝沢代表は冒頭，平成15年６月に任意団体設立を経て，平成23年７月に法人化，異業種組織活動を本格開始した経緯を紹介した。

この７月に第５期を迎えた当会は戦略モデル「次世代SCM循環型異業種サプライチェーンネットVer.3」の具現化を目指した活動を推進中だ。

次世代SCM異業種共同ネットワークをベースに６つの戦略事業を連携，現在はテーマ分野別の次世代SCM研究会並びに共同ビジネス機会創出の具現化，異業種会員200会員の達成と次世代SCM異業種共同ネットワークの拡大を目指している。

●食品流通次世代SCM研究会の取組の紹介「新札幌センターのご紹介，全国物流ネットワーク並びにICLTシステムのご紹介」／㈱紀文フレッシュシステム 鏡園信也氏

鏡園氏は，この４月に稼働開始された同社・札幌センターについて紹介。マテハン関連ではネステナー50基，重量ラック31基を当会会員の日建リース工業のグループ会社（日建片桐リース）から導入したことを発表後は，基幹システム，仕分け作業のハンディターミナル使用，セキュリティなどを強化した新センターの概要を紹介した。

●「入退出管理システムの紹介」／東京エレクトロニツクシステムズ㈱ 金子光一氏／佐藤武大氏

前述した紀文フレッシュシステム・札幌センターに導入したセキュリティシステムが，東京エレクトロニツクシステムズの「入退室管理システム」（納入は東芝テック）だ。

従業員の入退管理，従業員か部外者かといった判別，入室可能範囲を限定できる他，リアルタイムな所在管理，個数管理も可能としたシステムだ。

●当会事業活動及び会員企業の紹介

東芝テック，日建リース工業，BBF，佐藤・西浦法律事務所，山本孝之公認会計士事務所，東京システム運輸HDの各社が登壇，当会の推進活動内容や事業内容を個性豊かに紹介し，会場を沸かせていた。

●基調講演「次世代SCMのアウトライン」／日本大学教授 鈴木邦成氏

鈴木氏は次世代SCMのキーワードを①情報システムの刷新（IoT・ビックデータ・オムニチャネル・自動化・無人化），②循環型次世代SCMの物流の流れ，③次世代SCM対応の人財育成，と話す。

IoT（Internet of Things），オムニチャネルについて触れ，「ネット通販は個人情報を明らかにするため，不特定多数ではない。特定多数だ」と鈴木氏は指摘。今後はバーチャル化が進むことを示唆したほか，「小売業の卸化が進むだろう」と予測した。

そこで重要な位置づけとなるのが次世代SCMのための情報システム刷新だ。データの収集・技術把握，ビッグデータを分析可能な状態で蓄積。遠隔監視，需要管理，運行管理，決済管理，情報生成などに活用する。

2012年のビッグデータ流通量（全産業）は2005年からの７年間で3.5倍の221万TBとなっており，2017年には2012年の3.5倍まで拡張すると予測されている。「その莫大な情報をいかに

処理するかが，今後10年間の大きな課題」と鈴木氏は見る。

ドライバー不足，グリーン物流への対応などを踏まえた場合，物流における運行・配送システムに大きな刷新を求められる。SCMにおける物流システムのプライオリティがますます高くなりそうだ。

●物流業の無人化

さて，物流業ではドローンに見られるように「無人化」の方向性が模索されているが，庫内作業において有軌道式無人搬送台車と自動倉庫との組み合わせ等の「自動化」も進む。少子高齢化によるニーズからも無人化・自動化はますます進展していくだろう。

●循環型次世代SCMの物流の流れ

物流からロジスティクス（戦略物流）へ，さらにSCM（拡大されたロジスティクス）へと進化していくなか，環境負荷の低減は欠かすことができないテーマ。

日本におけるグリーンSCMは主に①モーダルシフト，②共同配送・共同物流，③リデュース，リユース，リサイクル，④物流商慣行の改善，⑤省エネ法対応の5点で進められているが，米国の物流学者，ビーモン博士は「従来の動脈部分の情報共有，ビジネスプロセスの最適化を推進するSCMに環境マネジメント，リバースロジスティクスの視点などを導入して，静脈部分の情報共有，ビジネスプロセスの最適化を推進する。リデュース，リサイクル，リユース，リマニュファクチャリング，リペアなどを戦略的に展開すべき」と提唱している。

その後，鈴木氏は次世代SCMに対応する人財育成の必要性を挙げ，SCMトータルソリューションの営業を可能とする人財を育てるための仕組み「SCMネット営業士」育成事業を，当会SCMネット・コンサル事業で開始すると発表した。

修得分野は①SCMの基礎知識，②営業ノウハウ，③コンプライアンスの強化，④インターンシップの4点。登録料は１名1,000円，

＊

セミナー終了後に開かれた交流会には多数の参加者があり，アンカーネットワークサービスの碇隆司社長の乾杯の音頭で歓談に入り，中締めは東京エレクトロニツクシステムズ㈱足立栄男社長が行った。

次回の次世代セミナーは16年２月に行う予定。

MF

一般社団法人 SCM 共同ネット研究会　新規会員募集中

資料請求・ご相談はこちら☞ TEL 03-5419-8239　E-mail info@scm-net.jp